

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00743

研究課題名(和文)古代メソポタミア北部における歴史時代の物質文化の研究—日本隊の発掘資料を中心に—

研究課題名(英文) Researches on the Archaeological Material Culture of Historical Period in the Ancient Northern Mesopotamia -Main Study of the Archaeological Materials from Sites of Japanese Expeditions-

研究代表者

沼本 宏俊 (Numoto, Hirotohi)

国土舘大学・体育学部・教授

研究者番号：40198560

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：シリア、テル・タバンの調査で出土した古バビロニア時代から中アッシリア時代(前19～10世紀)の遺構・遺物の研究分析を行い、以下の研究成果を上げた。(1)古バビロニア土器とミタンニ土器の正確な年代を確定した。(2)中アッシリアの出土土器の編年を確立した。(3)中アッシリアの公的建物跡の変遷と築造年代を明らかにした。さらにイラク、テル・サラサート1号丘出土の古バビロニア時代の土器資料の整理分析を実施し、前19世紀初頭に年代付けられることを明らかにした。イラク、クルディスタンのヤシン・テペとシャカル・テペの発掘調査を実施し、同地域の歴史考古時代の文化編年を構築するうえで新データを提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北メソポタミアの前2～1千年紀の実体を解明するうえで、欧米学界待望の第一級の新資料とされ国際的に注目されているテル・タバンの考古・文字資料の分析研究を基礎に、日本隊発掘資料と比較検討し文化的・社会的関連を究明した。本研究成果を国際学会で発表した結果、欧米研究者達からは不明瞭な北メソポタミアの同時代の考古学的研究を行う際のまさにテル・タバンは標準遺跡に適合すると見なされ、研究成果は大きな反響を呼んだ。また、政情不安からイラク北西部、シリアでの発掘調査、資料調査が不可能な現在、国内所蔵の過去の調査資料を見直すことで新たな研究意義を見いだすことができた。

研究成果の概要(英文)：We conducted researches and analysis in the archaeological materials of the Old Babylonian to the Middle Assyrian periods(19-10 century B.C.) excavated from Tell Taban, northeast Syria. The main research results are as follows: (1) We determined exact dates of the Old Babylonian pottery and the Mitannian pottery. (2) We established the pottery chronology of the Middle Assyrian period. (3) We clarified changes and dates of public building structures from the Middle Assyrian layers. Moreover, we researched the Old Babylonian pottery from Tell Thalathat No.1, northern Iraq and revealed that it chronologically placed on the early 19 century B.C.. We conducted excavations at Yasin Tepe and Shakar Tepe in the Shahrizor plain, Iraqi Kurudisutan and unearthed new data in establishing the chronology of archaeological historic period in the plain.

研究分野：メソポタミア考古学

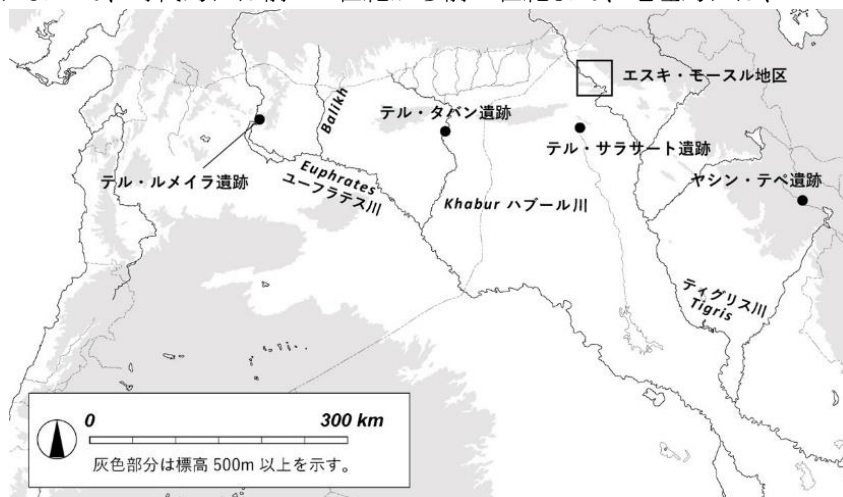
キーワード：メソポタミア テル・タバンの アッシリア 楔形文字 古バビロニア

1. 研究開始当初の背景

人類最古の都市文明が栄えた古代メソポタミア世界の研究は、19世紀以来、ティグリス・ユーフラテス両河の流域に位置する拠点遺跡の調査を中心に進展してきたが、調査対象が西アジアの広域に及ぶにつれ、研究の射程は地理的に拡大した。メソポタミア北西部に関しては、70年代以降本格的に研究が始まった。特に90年の湾岸戦争以降はイラク北部からシリア北部に発掘の重点が置かれ、多くの外国隊が調査を行ない、新たな考古学的データと大量の楔形文字資料が発見されたことで、前2千年紀の歴史文化の研究が大いに活性化された。一方、メソポタミア北東部のイラク、クルディスタンは、2000年代末以降、急速に治安回復が進み、諸外国隊により調査が活発に行われ、前2～1千年紀前半の都市遺構が発掘されるなど、新データがもたらされている。しかし、両地域における歴史時代の文化編年とその歴史的・社会的背景の体系的把握は今後の課題として残されている。今後の重要な課題は上述のモースル、ハブール、ユーフラテス中流、クルディスタンの各地域の物質文化の相互関連と文化編年、さらにその歴史的・社会的背景の研究である。北メソポタミアの調査は、イラク、シリアの政情から今後の発掘再開や資料調査は非常に難しい状況にあるため、過去に日本調査隊が行なった上述の遺跡から出土し、現在国内に保管されている膨大な未公表発掘資料の研究分析が重要視されていた。

2. 研究の目的

北メソポタミアの歴史的重要性についての認識は、ここ数十年で急速に深まった。そうしたなか、多様な文献学的・考古学的データを視野に収め、この地域の歴史的・文化的諸相を包括的に捉えて、複数の個別研究を連携させながら継続的に遂行することが求められている。本研究は、我が国の古代西アジア研究において初の考古学と文献学の協働した歴史考古学研究で、テル・タバンの考古資料研究、ヤシン・テペ考古学研究、テル・ルメイラ考古資料研究、テル・サラサート考古資料研究、テル・タバンの文書研究を軸として諸分野の研究を束ね、連携しながら推進する。これによって、時代的には前19世紀から前7世紀まで、地理的には、ユーフラテス中流域からティグリス河谷周辺までの北メソポタミア全体を視野に収めたうえで、我が国の優れた学術的取組を連携させて促進し、当該地域の歴史・社会・文化の諸相と変遷を複眼的・包括的に分析しうる。さらに、当該地域の政治的・文化的再編過程を理解する新たなパラダイムを提案することも含め、国際的にも先駆的な学術貢献を生むことができる。



ティグリス河谷周辺までの北メソポタミア全体を視野に収めたうえで、我が国の優れた学術的取組を連携させて促進し、当該地域の歴史・社会・文化の諸相と変遷を複眼的・包括的に分析しうる。さらに、当該地域の政治的・文化的再編過程を理解する新たなパラダイムを提案することも含め、国際的にも先駆的な学術貢献を生むことができる。

3. 研究の方法

メソポタミア北部（イラク北部とシリア北東部）の前2～1千年紀（古バビロニア～新アッシリア時代）の遺跡において我が国の調査隊（東京大学、古代オリエント博物館、国士舘大学）が実施してきた考古学的調査によってもたらされた豊富な考古資料を包括的に研究する。国内に保管されている重要な未整理資料を遺跡ごとに体系的に整理・分析し、各遺跡の研究成果を相互に比較したうえで、日本隊の調査によって発見された大量の楔形文字資料の情報も活用し、未だほぼ白紙に近い同地域の物質文化の様相を明らかにする。最終的には当該地域の文化編年の確立を目指す。研究分野を(1)シリア、テル・タバンの考古資料研究（国士舘大学保管）、(2)イラク、ヤシン・テペ考古学的研究、(3)シリア、テル・ルメイラ考古資料研究（古代オリエント博物館保管）、(4)イラク、テル・サラサート考古資料研究（東京大学総合研究博物館保管）、(5)テル・タバンの楔形文字資料研究の5分野に分け、その研究成果を束ね、複数の個別研究と研究組織全体で行う学際的研究を遂行する。

(1) シリア、テル・タバンの考古資料研究班：テル・タバンの出土遺物の整理分析作業。97～99年度の調査によって出土した考古学的コンテキストの明確な土器資料約5000点（古バビロニア時代～新アッシリア時代）、そして2005～10年度の調査によって出土した遺物のデータ（写真、実測図等）を整理・分析し、さらにこれを周辺地域の土器のデータと比較研究することによって、同遺跡の土器編年を確立する。

(2) イラク、クルディスタン、ヤシン・テペ考古学研究班：平成27年から実施してきた大型

遺跡ヤシン・テペの発掘を継続し、新アッシリア帝国辺境における行政拠点の景観と機能を考古学的に解明する。2回の調査では同地域では初の新アッシリアの大規模な公共的建物跡や地下式煉瓦造墓等が発掘され、大量の土器や様々な遺物が出土している。これらの遺物整理を行い、出土した新アッシリアの遺物とテル・タバンの出土資料との関連研究を行う。

(3) シリア、ユーフラテス中流域、テル・ルメイラ考古資料研究班：テル・ルメイラから出土した3万点を超える中期青銅器時代(前1900~1600年)並びに鉄器時代(前900~600年)の土器資料を分析し、テル・タバン出土土器資料(古バビロニア、ミタンニ、新アッシリア)と相互比較して、同流域における土器編年を究明する。土器資料の分析、及び観察、写真撮影、製図作業。これらの一連の作業を行う。

(4) イラク、モースル、テル・サラサート考古資料研究班：テル・サラサート1号丘出土の古バビロニア時代(前19~16世紀)の土器資料約5万点が保管されている。同遺跡はテル・タバンと地理的に接しており、物質文化も先史時代から共通し、テル・タバンの資料と比較することにより正確な年代を提示できる。土器資料の殆どが未整理であるため、分析及び観察、写真撮影、製図作業を行う。胎土分析や顕微鏡観察など出土遺物の自然科学的分析を行う。

(5) テル・タバン文書研究班：テル・タバンから出土した前18世紀後半と前13~11世紀の文書の情報を活用して同遺跡の編年の研究に取り組む。主要な手がかりは文書に付された日付と文書に言及される人物。後者に関しては、まず日付の明記された文書を手掛かりに各人物の活躍した年代を特定し、さらに人物の親族関係と世代関係を確定することによって、日付のない文書も大凡の年代を突き止める。このようにして得られたデータを文書の出土した層位の考古学的情報と付き合わせ、層位の年代確定に寄与する。

4. 研究成果

(1) シリア、テル・タバン考古資料研究：97,98年度の調査で出土した古バビロニア時代とミタンニ時代(前18~15世紀)の約1000点の様々な土器の実測、観察、写真撮影、トレースを実施した。05~10年の調査で出土した古バビロニア、中期・新アッシリア時代の未公表の重要遺構と遺物に焦点を置き研究分析を実施した。①古バビロニアの粘土板文書と共伴し出土した遺物のトレース及び図版作製。②中期アッシリアの地下式巨大煉瓦造墓からの出土遺物の解析。③中期アッシリアの粘土板文書が出土した王宮建物跡から出土した遺物の分析と作図・図版作成。④中期アッシリアの王宮と考えられる公共建物の変遷を分析し詳細な変遷図を作製した。⑤中期アッシリアから新アッシリアの過渡期層の遺構遺物を分析し、正確な年代を決定した。⑥中期アッシリアの出土土器を精査し出土層位から変遷・編年を構築した。⑦中期アッシリアの王宮建物跡から出土した遺物の分析と作図・図版作成、さらに同建物跡の築造年代と変遷を分析し、タバンの歴代王の誰が建造したものか究明した。最終年度は発掘調査報告書の出版に向けて全調査資料を見直し、出土遺構・遺物の精査を行った。05~10年の調査で出土した古バビロニア時代(前19,18世紀)、ミタンニ時代(前16~14世紀)、中期・新アッシリア時代の未公表の重要遺構と遺物に焦点を置き研究分析を実施した。特に古バビロニアの建築遺構の機能究明、出土土器を分析し出土品と他遺跡の出土品と比較検討し編年付けを行った結果、ハブール川上流域のMBA I b~II期の土器文化圏に属することが明らかになった。これらの研究成果は2021年と2023年に開催された国際学会(ICAANE)で発表した。欧米研究者達はタバンの土器編年は北メソポタミアの前2千年~1千年紀の研究を行う際の標準になるとし、研究成果は高く評価された(Shimogama and Numoto 2023)。

B.C.	テル・タバン 歴史時代(前2 ~1千年紀) 層序	出土文字資料
1800	古バビロニア 11層	 古バビロニア粘土板文書
1600	ミタンニ 10層	 ミタンニ粘土板文書
1300	中期アッシリア 9層	 中アッシリア粘土板文書
1100	8層 7層	 中アッシリア円筒印章文
1000	新アッシリア 6層 5層	 新アッシリア粘土入り土器
800	4層	
700	3層	

(2) イラク、クルディスタン、ヤシン・テペ考古学研究班：2018年度は本格的な発掘調査は実施せず、過去2回の調査で発見した同地域初の新アッシリアの大規模な公共的建物跡や未盗掘地下式煉瓦造墓等から出土した大量の土器や様々な注目すべき遺物の整理分析、保存修復を行った。最大の成果は青銅製のペンダントに楔形文字の銘文が刻まれていたことだ。日本隊によるイラク遺跡での文字資料の発見は2例目で、銘文内容から新アッシリア帝国の強制移住政策が同地域まで及んでいたことがわかった。2019年度はヤシン・テペとシャカル・テペの発掘調査を行った。1) 新アッシリア時代の拠点都市ヤシン・テペ遺跡の調査では「下の町」南東部において以下の3カ所を発掘した。①2017年に調査された未盗掘のレンガ墓の周辺、②2018年の地下探査で判明した溝状の直線遺構、および③南の城門近郊で地下探査により判明した遺構。①のレンガ墓の周辺では、墓の奥・後半部の構造、土器焼成窯、および水路が発見された。②の調査では、複数の溝状の遺構が発見され1つは、深さ2メートルほどの水路(運河)であった。③では、城門や城壁は検出されなかったが、計60体以上の遺体がバラバラな状態で埋葬されたレンガ墓が発見された。2) シャフリゾール平原に所在するシャカル・テペ遺跡の発掘調査を行った。発掘区の最上層からは歴史時代の直前に当たる銅石器時代の文化層が検出され、メソポタミア一帯に共通して分布する土器などが出土した。この成果から、歴史時代の幕開けに向けた

地域間ネットワークの強化が窺えた。また、遺跡地表面には、本研究の主な対象となる青銅器時代の遺物が数多く散布していることが分かり、今後の調査・研究に向けた有益な情報が得られた。2021年度のヤシン・テペ調査は本格的な発掘は実施せず、高解像度衛星データを使用し遺跡周辺地域の踏査を行い、青銅器時代、鉄器時代、ササン朝、イスラム時代の居住区の広がりを確認した。他に同遺跡のアクロポリスの城門跡の石組み建造遺構の3Dデータ図面を作成した結果、ヴォールト天井の部屋が二つ並列した特殊構造であることが明らかになった。2022年度のヤシン・テペ遺跡の調査ではアクロポリスと「下の町」地区の発掘を行った。「アクロポリス」地区の文化層の堆積を確認のため斜面にステップトレンチを設定し掘り下げた。上層からイスラム時代、鉄器時代、ウルク期、ウバイド期、サマラ期、ハッスーナ期の堆積層を検出し、同遺跡の文化編年を明らかにすることができた。先史時代から歴史時代にかけて連続と継続した文化層の堆積が確認された遺跡は同地域では他に類例がなく、今後同地区の調査を継続すれば同地域の未解明の文化編年の構築に多大な貢献が期待される。「下の町」地区の調査では新アッシリア時代の神殿等の公的建造物と推測される幅90cmの石壁で構築された複数の部屋跡、中庭の石敷き、水路等で構成された遺構を発見した。シャカル・テペが水没していたため発掘調査が行えず、代わりに同シャフリゾール平原に所在するシャイフ・マリフ遺跡Ⅱ号丘の調査を実施した。前6000年頃の後期新石器時代と推測される層を調査し井戸址等を検出し、多くの土器・石器等の考古資料を採集することができた。同平原の調査では同時代の資料の発見は初で画期的な成果であった。

(3) シリア、ユーフラテス中流域、テル・ルメイラ考古資料研究班：テル・ルメイラⅦ～Ⅵ層出土土器群とテル・タバンの古バビロニア時代の土器群を比較分析した結果、器種構成や技術形態的な点で概ね類似するが、タバンではハブール土器が卓越する一方で楡描文の多様性に欠けるなど、両者の間では顕著な地域差が認められた。絶対年代の観点からみれば、タバンT8出土土器は共伴し出土した粘土板文書から前18世紀3四半期に年代付けられる一方、ルメイラではⅦ～Ⅵ層が放射性炭素年代から前19世紀から18世紀前半に相当する。つまり両者の土器伝統の違いが同時であることを絶対年代からも裏付けられることができた(Shimogama and Numoto 2023)。

(4) イラク、モースル、テル・サラサート考古資料研究班：テル・サラサート1号丘出土の古バビロニア時代の土器資料の整理分析を実施し、同資料の正確な年代を特定した。1965～66年に調査した1号丘頂部出土の古バビロニア時代(前20～18世紀)の土器資料が約1トン保管されている。保管土器は第一層の地方君主墓と推測される6つの小部屋と地下式石積み遺構から成る特殊な埋葬施設から出土しており、まず各部屋・地下式遺構ごとに土器を分類した。各出土地のハブール土器等の特徴的な器形を選別・分類し、実測図化、観察、写真撮影を行った。テル・タバンの古バビロニア土器と比較し、第一層の埋葬遺構と第二層の祭祀遺構の出土土器はタバン土器編年の①②に相当すると考えられ、前19世紀前半に年代付けられることがわかった。近年、イラク北部、クルド自治区では欧米隊により前3～1千年紀の遺跡が数多く調査されている。こうした調査によって出土する遺物として、ハブール土器に代表される古バビロニア時代(前20～18世紀)の彩文土器が研究対象として注目されているが、正確な土器編年も確立されていないのが現状である。こうした中、これらの時代の標準資料としてI号丘出土古バビロニア時代の土器資料に関心が注がれ、その研究成果の公表が待望されているが、本研究成果が同時代の文化編年の解明に大いに貢献すると期待される。

(5) テル・タバン楔形文字資料研究：テル・タバンから出土した古バビロニアの粘土板文書と中期アッシリアの楔形文字資料の詳細な解読分析を実施した。出土文書の中でも前2千年紀後半に由来する地方王国「マリ国」の文書の出版と研究、そして同文書を他の遺跡の文書と比較しながら進めた前2千年紀後半のアッシリアに関する研究に取り組んだ。具体的には、「マリ国」のローカルな法制度に関する研究、神殿と祭儀に関する研究、暦制度に関する研究、前11世紀のアッシリアのクロノロジーに関する研究、武装した遊牧民アラム人によるアッシリア襲撃に関する包括的な研究などである。これらの研究成果は古代西アジア史の金字塔「Oxford History of the Ancient Near East」において前11～8世紀アッシリア史のチャプターに論述した(Shibata 2023)。

〈引用文献〉

Shimogama, K. and H. Numoto 2023 “Fixing the Time of Middle Bronze Age Pottery and Cuneiform Texts: New Evidence from Tell Taban, North-Eastern Syria”, *Proceedings of the 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Vol.1, 547-558.

Shibata, D. 2023 “Assyria from Tiglath-pileser I to Ashurnasirpar II”, in: K. Radner, N. Moeller and D. T. Potts(eds.), *The Oxford History of the Ancient Near East*, Vol.4, Oxford University Press, 2023, 161-256.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計52件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 無
2. 論文標題 The building enterprises of Assur-ketta-lesir II, king of the land of Mari, and the conflict with the Arameans during the reign of Tiglath-pileser I, king of Assyria	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kullat tupsarruti: Festschrift fur Stefan M. Maul, Harrassowitz	6. 最初と最後の頁 567-597
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沼本宏俊	4. 巻 5
2. 論文標題 シリア、テル・タバン出土、中アッシリアの排水溝と貯水遺構	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 35-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 5
2. 論文標題 研究ノート：アッシリアの新首都カルフの独自性・新規性について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 9
2. 論文標題 The Sulgi Prophecy in the Kassite and Neo-Assyrian Periods: A Consideration of the Original Composition and Its Later Reception	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Deciphering Assyria: A Tribute to Simo Parpola on the Occasion of his 80th Birthday, Melammu Workshops and Monographs	6. 最初と最後の頁 407-434
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 4
2. 論文標題 Assyria from Tiglath-pileser I to Ashurnasirpal II	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Oxford History of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 161-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 5
2. 論文標題 古代メソポタミア都市の伝統と景観に関する覚書2ーアッシュルナツィルパル二世による新都カルフの祭儀政策ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 75-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、山田重郎、沼本宏俊、S. ジャミール、R. サールフ、H.H. アブドゥッラー	4. 巻 30
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘るーイラク、クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第6次調査(2022年)ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第30回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 113-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishiyama Shinichi, Yamada Shigeo	4. 巻 113(2)
2. 論文標題 The God Nabu at the Frontiers of the Assyrian Empire: Newly Discovered Inscribed Bronze Neck Ornament from Yasin Tepe, Iraqi Kurdistan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Zeitschrift für Assyriologie und vorderasiatische Archäologie	6. 最初と最後の頁 250-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛、前田修、三木健裕、早川裕式、P.イエウエル、H.ハマ=ガリーブ	4. 巻 30
2. 論文標題 新石器化と都市化のはざまーイラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡の第1次発掘調査(2022)ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 第30回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Odaka, T., O. Maeda, K. Shimogama, Y. S. Hayakawa, Y. Nishiaki, N. A. Mohammed and K. Rasheed	4. 巻 2
2. 論文標題 Late Prehistoric Investigations at Shkar Tepe, the Shahrizor Plain, Iraqi Kurdistan: Preliminary Results of the First Season (2019)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 415-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Odaka, T., O. Maeda, T. Miki, Y. S. Hayakawa, P. Yewer and H. Hama Gharib	4. 巻 1
2. 論文標題 Excavations at Shaikh Marif, Iraqi Kurdistan: Preliminary Report of the First Season (2022)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ancient Civilizations and Cultural Resources	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimogama Kazuya, Numoto Hirotooshi	4. 巻 1
2. 論文標題 Fixing the Time of Middle Bronze Age Pottery and Cuneiform Texts: New Evidence from Tell Tanban, North-Eastern Syria	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 547-558
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沼本宏俊	4. 巻 4
2. 論文標題 シリア、テル・タバン出土、新アッシリアの土器窯	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 71-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamad Shigeo	4. 巻 84(3)
2. 論文標題 Review of: Chen Fei, Study on the Synchronistic King List from Ashur (Cuneiform Monographs 51)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 565-567
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 8
2. 論文標題 To Be Assyrian Residents: A Reflection on the Integration of the Subjugated People into the Assyrian Empire	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Neo-assyrian King as a nodal point of Neo-Assyrian Identity, Kasion	6. 最初と最後の頁 273-294
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 4
2. 論文標題 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2021年度年次報告書 巻頭言	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 74
2. 論文標題 The Assyrian king of the Broken Obelisk, the date of the archive from Giricano, and the timing of the Assyrian calendar reform	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cuneiform Studies	6. 最初と最後の頁 109-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata, D. and S. Yamada	4. 巻 無し
2. 論文標題 Calendars of the Land of Hana and the Middle Assyrian Land of Mari in the Second Millennium BC.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Calendars and Festivals in Mesopotamia in the Third and Second Millennia BC	6. 最初と最後の頁 165-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 無し
2. 論文標題 バスタブ型棺とアッシリアーエリート層埋葬形態の地域差に関する考察ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会第26回総会・大会要旨集	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 4
2. 論文標題 アッシリアと水ー都市、水、景観に関するヤシン・テベからの視点ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 85-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、H.H.アブドゥッラー、山田重郎、沼本宏俊	4. 巻 29
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘るーイラク、クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト・2021年度の成果ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 第29回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 43-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Odaka, T. and O. Nieuwenhuys	4. 巻 57
2. 論文標題 Halaf Pottery in the East End: Insights from Tell Begum, Iraqi Kurdistan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 113-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沼本宏俊	4. 巻 3
2. 論文標題 シリア、テル・タバン出土、鉄剣副葬の中期アッシリア土壙墓	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 46-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 3
2. 論文標題 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2020年度年次報告書 巻頭言	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 3
2. 論文標題 前11・10世紀におけるアッシリア王国の衰退	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 87-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、H.H.アブドゥッラー、山田重郎、沼本宏俊	4. 巻 28
2. 論文標題 アッシリア帝国の東部辺境を掘る－イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・2020年の進展－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第28回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛	4. 巻 3
2. 論文標題 新石器化から都市化へ－イラク・クルディスタン、シャカル・テベ遺跡の発掘調査と出土土器－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 7-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛、前田修、下釜和也、早川裕弐、西秋良宏、ナシルワン・アジズ・ムハンマド、カマル・ラシード	4. 巻 28
2. 論文標題 新石器化と都市化のはざま－イラク・クルディスタン、シャフリゾール平原の先史遺跡調査（2019 - 20年）－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 第28回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 無
2. 論文標題 ユーフラテス川中流域における前期青銅器時代の地域間交流－テル・アリー・アル＝ハッジ遺跡を中心に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代近東の国際社会における多様な文化－考古学および文献学によるアプローチ	6. 最初と最後の頁 110-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 3
2. 論文標題 考古学からみたメソポタミア銅石器時代と都市化－研究の現状と課題－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 62
2. 論文標題 収蔵品紹介 ルメイラ墓地出土の赤色帯文精製壺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ORIENTE	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沼本宏俊	4. 巻 62 2
2. 論文標題 テル・タバンの出土、中・新アッシリアの遺構と土器変遷「(企画セッション)アッシリアの属国と属州：テル・タバンの成果から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 175-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 都市・行政州・領土：アッシリア先帝国期における国家形成と領土支配 - 研究途上の覚書 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山田重郎編『文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）平成30年度～34年度「都市文明の本質：古代西アジアの蹴る都市の発生と変容の学際研究」研究成果報告2（2019年度）』	6. 最初と最後の頁 103-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 55
2. 論文標題 Names of Walls, Gates, and Palatial Structures of Assyrian Royal Cities: Contents, Styles, and Ideology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 Neo-Assyrian Trading Posts on the East Mediterranean Coast and "Ionians": An Aspect of Assyro-Greek Contact	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa (Orient, Supplementary volume 1)	6. 最初と最後の頁 221-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 sal(a)hum in the Old Babylonian Letters and the Urban Landscape of Upper Mesopotamia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 in Sur l'art, sur l'histoire et sur la vie: ecrits, notes et pensees offerts a Olivier Rouault/On Art, on History and on Life: writings, notes, reflections offered to Olivier Rouault	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 Sim'alites at Tabatum and the Origin of the Kingdom of the 'Land of Hana'	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 De l'argile au numerique: Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin	6. 最初と最後の頁 1189-1207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 無
2. 論文標題 The Gods of Tabetu during the Middle Assyrian Period and their Genealogy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 De l'argile au numerique: Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin, Peeters	6. 最初と最後の頁 943-975
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 6
2. 論文標題 Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bel-gabbe II, King of the Land of Mari	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Beitrage zur Kenntnis und Deutung altorientalischer Archivalien: Festschrift fur Helmut Freydank zum 80. Geburtstag, dubsar 6, Zaphon	6. 最初と最後の頁 409-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔、山田重郎	4. 巻 62 2
2. 論文標題 テル・タバンの出土アッシュル・ケタ・レシエル2世の記念碑文とその歴史的背景「(企画セッション)アッシリアの属国と属州:テル・タバンの成果から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 176-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、山田重郎、沼本宏俊、ハシム・ハマー・アブドゥッラー	4. 巻 なし
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第4次 (2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 62 2
2. 論文標題 考古学から見たヤシン・テペ：新アッシリア時代の拠点都市と属州支配「(企画セッション)アッシリア の属国と属州：テル・タバノとヤシン・テペの成果から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 175-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 なし
2. 論文標題 レヴァント回廊の歴史を探る 第5次(2019年)・フェニキアの港パトルーン遺跡の試掘調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 なし
2. 論文標題 A Neo-Assyrian Border City: Yasin Tepe Archaeological Project in Sulaymaniyah Governorate, Iraqi Kurdistan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ASOR 2019 Program and Abstract Book	6. 最初と最後の頁 175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛、下釜和也、西秋良宏、前田修、早川裕式、ナシルワン・アジズ・ムハンマド、カマル・ラシード	4. 巻 なし
2. 論文標題 新石器化と都市化のはざまーイラク・クルディスタン、シャカル・テベ遺跡の第1次発掘調査（2019年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛	4. 巻 45(2)
2. 論文標題 From the 7th to the 6th millennium BC in Iraqi Kurdistan: A local ceramic horizon in the Shahrizor Plain	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Paleorient	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 なし
2. 論文標題 前期青銅器時代のメソポタミアと4.2kaイベント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会公開シンポジウム実行委員会編『気候変動と古代西アジア-古気候から探る文化・文明の興亡-』	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沼本宏俊、山田重郎、柴田大輔	4. 巻 なし
2. 論文標題 Excavations at Tell Taban: Culture and history at Tabatum/Tabetu during the second millennium B.C.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Archaeological Explorations in Syria 2000-2011: Proceedings of International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage, Beirut, December 3-6, 2015, Oxford: Archaeopress	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、山田重郎、沼本宏俊、ハースム・ハマー・アブドゥッラー	4. 巻 なし
2. 論文標題 アッシリア帝国東辺部を掘る - イラク・クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト、第3次(2018)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第26回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 109-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田重郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 メソポタミア景観考古学：イラク・クルド地区における最近の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）平成30年度～34年度「都市文明の本質：古代西アジアの蹴る都市の発生と変容の学際研究」	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小高敬寛	4. 巻 なし
2. 論文標題 Neolithic Pottery with Horizontal Applied Bands from Tell el-Kerkh, the Rouj Basin	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 A. Gómez-Bach, J. Becker and M. Molist (eds.), II Workshop on Late Neolithic Ceramics in Ancient Mesopotamia: Pottery in Context	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 なし
2. 論文標題 The Japanese Excavations at Tell Ali al-Hajj, Rumeilah, on the Euphrates: Settlement, Material Culture and Chronology	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, Volume 2: Excavation Reports & Summaries. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag	6. 最初と最後の頁 627-638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計42件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 Patron deities in Ancient Mesopotamian cities
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology -
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 Archaeometrical analyses on the Iron Age material remains excavated from the eastern border zone of the Assyrian Empire: results from Yasin Tepe, Iraqi Kurdistan
3. 学会等名 Cities and Urbanization in West Asia and Egypt - Shapes, Functions, and Ideology -
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ遺跡出土のアヒル型分銅－アッシリア帝国の度量衡制度の一考察－
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 新石器化と都市化のはざま－イラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡の第1次発掘調査(2022)－
3. 学会等名 第30回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 イラク・クルディスタン、シャイフ・マリフ遺跡 号丘の年代について
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第28回総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 下釜和也、沼本宏俊
2. 発表標題 Transition from the Middle Assyrian to the Neo-Assyrian Period at Tell Taban, Northeastern Syria
3. 学会等名 13th ICAANE at Copenhagen (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 沼本宏俊
2. 発表標題 テル・タバンの古バビロニアと中アッシリアの遺構・遺物
3. 学会等名 都市文明の本質：計画研究02第24回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 古代メソポタミア都市の系譜と諸形態
3. 学会等名 科研費学術変革領域研究(A)「中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ」と本新学術領域研究の合同シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 イラク・クルディスタンで新アッシリア帝国時代の拠点都市を掘る：ヤシン・テペ遺跡の最新成果から見る都市構造
3. 学会等名 都市文明の本質：計画研究02第22回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 メソポタミア銅石器時代と都市化の過程
3. 学会等名 科研費学術変革領域研究(A)「中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ」と本新学術領域研究の合同シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 沼本宏俊
2. 発表標題 シリア、テル・タバンの出土、中期アッシリアの巨大地下式煉瓦墓
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会：企画セッション2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 都市プランとイデオロギー：ドゥル・シャルキンの四角形都市プランの考察
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会：企画セッション2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 古代メソポタミアの都市の系譜
3. 学会等名 都市文明の本質：領域全体研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 新都カルフにおける神殿祭儀の創設
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会：企画セッション2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 古代メソポタミアにおける都市と神殿：概略
3. 学会等名 都市文明の本質：領域全体研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 バスタブ型棺とアッシリア：エリート層埋葬形態の地域差に関する考察
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第26回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 アッシリア東部辺境のエリート層埋葬と中央部の関係：ヤシン・テペの事例を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会第63回年次大会：企画セッション2
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下釜和也、沼本宏俊
2. 発表標題 Fixing the time of Middle Bronze Age pottery and cuneiform texts new evidence from Tell Taban, northeastern Syria
3. 学会等名 12th ICAANE at Bologna [virtual] (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 アッシリア帝国の東部辺境の拠点都市：ヤシン・テペ考古学プロジェクトの最新成果
3. 学会等名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究、計画研究02第13回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 メソポタミア銅石器時代と都市化－研究の現状と課題－
3. 学会等名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究、計画研究01第14回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沼本宏俊
2. 発表標題 テル・タバンの出土古バビロニア土器とミッタニ土器
3. 学会等名 科研費研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沼本宏俊
2. 発表標題 テル・タバンの出土、中・新アッシリアの遺構と土器変遷
3. 学会等名 新学術領域研究「都市文明の本質」A02 - 計画研究02第11回研究会・アッシリアの属国と属州：テル・タバンの出土とヤシン・テベの調査成果から
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ヤシン・テベ出土ネックレス碑文
3. 学会等名 第62回シュメール研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ヤシン・テベ出土ネックレス碑文 文書の詳細とその文献学的・歴史学的分析
3. 学会等名 新学術領域研究「都市文明の本質」A02 - 計画研究02第11回研究会・アッシリアの属国と属州：テル・タバンの出土とヤシン・テベの調査成果から
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 Names of Walls, Gates and Palatial Structures in Assyrian Royal Cities: Their Contents, Styles and Ideology
3. 学会等名 ASOR Meeting, Westin San Diego (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 Like that of Assyrians': A reflection on the imposed Assyrian identity over the extended imperial territory
3. 学会等名 Workshop: The Neo-Assyrian King as a nodal point of Neo-Assyrian Identity, University of Helsinki (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 前10～9世紀におけるアッシリアの「再征服」プロセス：ハブール川流域とシ ャフリゾール
3. 学会等名 科研費研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 テル・タバンの出土アッシュル・ケタ・レシエル2世の記念碑文とその歴史的背景
3. 学会等名 新学術領域研究「都市文明の本質」A02 - 計画研究02第11回研究会・アッシリアの属国と属州：テル・タバンの調査成果から
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柴田大輔、山田重郎
2. 発表標題 The Building Inscriptions of Assur-ketta-lesir II, "King of the Land of Mari", in the Late Middle Assyrian Period: Their Historical Implications
3. 学会等名 65e Rencontre Assyriologique Internationale, Collège de France, Paris (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 A Neo-Assyrian Border City: Yasin Tepe Archaeological Project in Sulaymaniyah Governorate, Iraqi Kurdistan
3. 学会等名 ASOR Meeting, Westin San Diego (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 新アッシリア帝国の都市構造への考古学的アプローチ：Yasin Tepe Archaeological Projectの成果をもとに
3. 学会等名 科研費研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 鉄器時代施釉土器の分布と系譜：ザグロス山系からレヴァント地方まで
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 考古学から見たヤシン・テペ：新アッシリア時代の拠点都市と属州支配
3. 学会等名 新学術領域研究「都市文明の本質」A 0 2 - 計画研究02第11回研究会・アッシリアの属国と属州：テル・タバんとヤシン・テペの調査成果から
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 A late PPNB storehouse and clay containers at Tell el-Kerkh, north-western Syria
3. 学会等名 Thinking Inside the Box: Containers in Neolithic Western Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 Late Neolithic in the Shahrizor, Iraqi Kurdistan: A new evidence from Shakar Tepe, the excavations in 2019
3. 学会等名 9th International Conference on the PPN Chipped and Ground Stone Industries of the Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 テル・ハッスーナ遺跡で採集された新石器時代の土器
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第24回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 古代メソポタミアの地域間交流-シリア青銅器時代～鉄器時代の考古学研究を中心に～
3. 学会等名 国際会議「古代近東の国際社会における多様な文化」同志社大学一神教学際研究センター（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 前期青銅器時代のメソポタミアと4.2kaイベント
3. 学会等名 日本西アジア考古学会公開シンポジウム『気候変動と古代西アジアー古気候から探る文化・文明の興亡ー』（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 Landscape of Tabatum as Seen in the Old Babylonian Letters from Tell Taban
3. 学会等名 64th Rencontre Assyriologique Internationale, University of Innsbruck, Austria (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 New Insights into Regional Variability of the Hassuna Standard Ware
3. 学会等名 Third International Workshop on Ceramics from the Late Neolithic Near East (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小高敬寛
2. 発表標題 From the Seventh into the Sixth Millennium in the Shahrizor, Iraqi Kurdistan: Filling the Gap
3. 学会等名 11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 People and Graves Before Settlement: Pursuing Early Bronze Age Mobility at Rumeilah on the Middle Euphrates
3. 学会等名 11th International Congress on the Archaeology of Ancient Near East (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 柴田大輔、山田重郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 342
3. 書名 岩波講座世界歴史2ー古代西アジアとギリシャー前1世紀ー	

1. 著者名 山田重郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 240
3. 書名 帝国崩壊 歴史上の超大国はなぜ滅びたのか (上巻)	

1. 著者名 Daisuke Shibata, Yamada Shigeo	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Harrassowitz	5. 総ページ数 238
3. 書名 Calendars and Festivals in Mesopotamia in the Third and Second Millennia BC. Studia Chaburensia 9	

1. 著者名 中田一郎、西秋良宏、小高敬寛、山田雅道、山田重郎（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Shams company	5. 総ページ数 272
3. 書名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Between Neolithisation and Urbanisation https://zpp-project.blogspot.com/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 重郎 (Yamada Shigeo) (30323223)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	柴田 大輔 (Shibata Daisuke) (40553293)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	西山 伸一 (Nishiyama Shinichi) (50392551)	中部大学・人文学部・教授 (33910)	
研究分担者	眞保 昌弘 (Shinbo Masahiro) (60407202)	国土館大学・文学部・教授 (32616)	
研究分担者	西秋 良宏 (Nishiaki Yoshihiro) (70256197)	東京大学・総合研究博物館・教授 (12601)	
研究分担者	小高 敬寛 (Odaka Takahiro) (70350379)	金沢大学・GS教育系・准教授 (13301)	
研究分担者	下釜 和也 (Shimogama Kazuya) (70580116)	千葉工業大学・地球学研究センター・研究員 (32503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関